



まろやかな味わい「静岡牧之原茶」

お茶と関わりが深い、ハイナン農協青壮年部長西谷祥治さんと、静岡牧之原茶宣伝隊長蓮池晃治さんから、お茶への思いをお聞きしました。

蓮池さん とにかくお茶に触れてもらう。お茶とは違う入口から入ってきてもらって、いつの間にかお茶を飲むようになってくれるとうれしい。

西谷さん 形から入るといって切り口もあっていいと思う。サイフォンやエスプレッソなど、流行にあわせた淹れ方を試すこともよい。女性はおしゃれを好むから。

西谷さん 会話をしている、何もなしだと寂しい。そういうときに、お茶があれば話ははずむ。

蓮池さん 他の飲物は、ほとんどが容器から注いでさっと飲める。お茶には、入れる時間があり、この時間からコミュニケーションが始まる。

蓮池さん 音楽とお茶には共通するものがあり、主役はあくまでそこにいる人。お茶や音楽はその脇役。私たちの役割は、お茶や音楽を提供することで、会話が盛り上がるようサポートすることだと思ふ。

西谷さん お邪魔した先で、お茶を出してもらおうと暖かく感じる。日本の伝統的なおもてなしの心の一つが、お茶を出すことだと思ふ。

蓮池さん 湯の熱さなど、細かな淹れ方も大切。しかし、あまり形式化してしまうより、飲む人が納得すればよい。

西谷さん 人と人の間、その傍らにはいつもお茶が、気が付いたらそばにお茶がある。そんな日常に向け、お茶のよさを広めていくために、みん

②まきのはら協奏曲
静岡牧之原茶のPRを目的に結成された牧之原茶宣伝隊では、お茶カフェイベントの「まきのはら協奏曲」を企画運営をしています。

これは、お茶の生産者が目の前で淹れてくれたお茶を市内菓子店のスイーツと一緒に、音楽を聞きながら楽しむイベントです。

参加者には、ゆったりと会話をしながら、自分の好みのお茶を見つけてもらいます。

今年も、2月21日に開催し、市内外から、家族連れやお年寄りまで、多くの人でにぎわいました。

③ティーヒーロー選手権
JAハイナン青壮年部により毎年開催している「ティーヒーロー選手権」は、お茶と触れ合う一大イベントです。市内の小学5年生全員が、茶葉の形や香り、味でお茶の種類当てに挑戦します。

ただ、競い合うだけでなく、イベントをきっかけに友達同士や親子が、お茶を共通の話題に会話が生まれ、その関心も年々高まっています。

JAハイナン青壮年部では、牧之原市内だけに留まらず、中部大会や県大会の開催を目



真剣勝負の闘茶会「第7回ティーヒーロー選手権」



お茶を飲みながら話す蓮池さん(左)と西谷さん(右)

など一緒に、多くの人を巻き込み、挑戦していきたい。

蓮池さん 会話の隙間を埋めたり、はずませたり効果がお茶にはいっぱいある。ぜひ、皆さんもお茶との関わりを、これまで以上に深めていってほしい。

一日6杯

一日6杯お茶を飲もう

近年、お茶の健康効果が続々と報告され、日本のみならず世界中から注目されています。

お茶のカテキンはガン予防に効果があると言われております。また、お茶を日常的に飲む人は飲まない人に比べて、病気で死亡するリスクが最大4割減少するという研究が、昨年発表されて大きな話題となりました。

市では「一日6杯運動」を推進し、市民の皆さんの健康増進を図っています。

お湯の温度で味に変化

お茶の味は、淹れる際のお湯の温度によって変化します。70度位のぬるめの温度では甘味や旨味を感じ、90度から100度の熱湯では渋みや苦味が強く引き出されます。

ゆったり楽しみたいときには、ぬるめに淹れて甘味を味わい、食後は熱めで渋く淹れて口をさっぱりさせるなど、タイミングや好みによって味わい方を変えて楽しんでください。



第7回ティーヒーロー選手権 個人の部優勝 不知録さん(片浜小)

ティーヒーロー選手権に参加してみようでした？

家がお茶農家で、普段からお茶と関わりがあったから優勝できたと思う。選手権では緊張はなく、味で見分けるのが得意なので、飲んだときのお茶がすぐわかった。他の学校の生徒とも仲良くなれて楽しかった。

これからお茶とどのように関わっていききたい？

家でお茶の仕事をお手伝いするし、自分で急須を使ってお茶を淹れて飲んでいる。これからも急須で淹れるお茶やお茶の伝統を引き継いでいきたい。

指していきたいと考えています。

そして、参加者の中から、将来、日本だけでなく海外にまでお茶の良さを広めてくれる人が誕生してくれることを期待しています。

今回で7回目を迎えるティーヒーロー選手権で、優勝した不知録さん(片浜小)に感想を語ってもらいました。